



三種町

議会だより

平成24年
7月13日 発行

第26号

「おいしい じゅんさい丼」

写真提供：吉田博光さん（鶴川字東鶴の巣）



も く じ

補正予算の内容、補正予算等審議
議案一覧、議案採決結果

請願・陳情 2～4

一般質問（9人が登壇） 5～9

研修報告 9

新常任委員会等構成 10

「あれ何となってらった」 11

三種の星、編集後記 12

発行：三種町議会

編集：議会広報編集特別委員会

〒018-2401 秋田県山本郡三種町鶴川字岩谷子8番地

TEL(0185)85-4831 FAX(0185)85-2178

URL <http://www.town.mitane.akita.jp/>

平成24年 6月定例会補正予算の内容

6月6日～8日

区 分	補正前の予算総額	追 加 補 正 額	補正後の予算総額
●一般会計	92億1,316万5千円	1億1,359万9千円	93億2,676万4千円
【主な歳出】			
・再生可能エネルギー導入事業		1千920万 円	(県支出金、一般財源)
・琴丘地域拠点センター建設事業		2千595万7千円	(町債、一般財源)
・北海道ふるさと会設立準備費		14万5千円	(一般財源)
・小規模介護施設等緊急整備費補助金		3千 万 円	(県支出金)
・山本地域保育園再編検討事業		22万5千円	(一般財源)
・暴風被害復旧支援資金利子補給		7万 円	(県支出金、一般財源)
・メロンほ場消毒助成事業		160万 円	(一般財源)
・農業公社新法人移行支援事業		105万 円	(一般財源)
・子ども双方向交流プロジェクト事業		33万6千円	(県支出金)
・避難施設特設公衆電話設置工事		197万6千円	(県支出金、一般財源)
・JR地方文化事業支援事業		510万 円	(諸収入、一般財源)
・三種ミュージカル支援事業		390万 円	(諸収入、一般財源)
・八竜改善センター耐震診断業務		200万6千円	(一般財源)
・町営治山復旧事業		980万 円	(県支出金、分担金、一般)
・県営造成施設等突発事故復旧事業		50万 円	(一般財源)
・農地小災害支援事業		75万 円	(県支出金、一般財源)
・集会所等施設整備費補助金		352万5千円	(一般財源)
・重点品目産地づくり支援事業補助金		1千990万8千円	(県補助金、一般財源)

●特別会計

区 分	補正前の予算総額	追 加 補 正 額	補正後の予算総額
国民健康保険事業勘定特別会計	26億1,731万 円	2,836万7千円	26億4,567万7千円
簡易水道事業特別会計	2億7,059万 円	歳出組替	2億7,059万 円
公共下水道事業特別会計	5億7,016万5千円	歳出組替	5億7,016万5千円
農業集落排水事業特別会計	4億 490万7千円	326万2千円	4億 816万9千円
介護保険事業勘定特別会計	24億2,667万5千円	26万 円	24億2,693万5千円

●水道事業会計

区 分	補正前の予算総額	追 加 補 正 額	補正後の予算総額
収益的収入	1億4,109万9千円	82万6千円	1億4,192万5千円
収益的支出	1億3,963万1千円	158万1千円	1億4,121万2千円
資本的収入	4,562万3千円	△5千円	4,561万8千円
資本的支出	7,734万5千円	△1万 円	7,733万5千円

平成24年度予算	その他	契約	条例改正	専 決 処 分								平成23年度予算				区分	審議された議案一覧
国民健康保険事業勘定特別会計予算の補正	一般会計予算の補正	解散	秋田県村土地開発公社の規約	秋田県後期高齢者医療広域連合規約の一部を変更する	財産の購入	三種町手数料徴収条例の一部を改正する条例の制定	三種町印鑑条例の一部を改正する条例の制定	三種町印鑑条例の一部を改正する条例の制定	三種町国民健康保険税条例の一部を改正する条例	平成24年度一般会計補正予算	平成23年度一般会計補正予算	平成23年度一般会計補正予算	平成23年度一般会計補正予算	平成23年度一般会計補正予算	平成23年度一般会計補正予算	平成23年度一般会計補正予算	議 案 名
16	15	19	19	19	19	19	18	19	19	19	19	19	19	19	19	19	賛成
2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	反対
可決	可決	可決	可決	可決	可決	可決	承認	承認	承認	承認	承認	承認	承認	承認	承認	承認	結果

補正予算等審議

専決処分の承認

平成23年度一般会計補正予算

問 町有地等売却収入（琴丘医師住宅売却）について、代金納入が

昨年6月30日であり、6月、9月、12月、3月定例会、その間の臨時議会、すべて忘れられていることがあるのか。事務的に問題である。

答 計上忘れである。最終的に年度精査した段階で確認したところ

計上されておらず、専決で予算補正させていただいた。

平成24年度一般会計補正予算

問 4月の強風被害について、パイプハウス等の見舞金は1千万円、

住宅の災害復旧の補助金は300万円となっている。住宅の災害復旧事業の内訳は。

答 被害額が50万円を超えた場合、50万円の15%で7万5千円、

50万円以下では、その金額に15%をかけた額になるが、予算措置は上限の7万5千円の40件を予定した。

消防ポンプ自動車購入契約

問 森岳大町班に消防ポンプ自動車

が納入後、現在使用している自動車の処理方法はどうなるのか。

答 消防ポンプ自動車購入先（能代消防センター）での処分となる

が、その取扱いについてはまだ協議していないので、今後納入次第協議したい。

平成24年度補正予算

一般会計

問 琴丘中学校50周年記念事業の7万円の内容は。

答 9月2日に、記念式典、講演会、記念植樹などを予定しており、その経費の2分の1を助成するものである。

問 琴丘地域拠点センターの基本設計の予算が補正計上されている

が、平成23年度当初予算でも基本設計費が計上されている。今回の基本設計との関係はどうなるのか。

答 平成23年度の基本設計の成果として求めたものは、あくまでも

現状の施設を建設する場合、どういった平面計画から概算事業費を出して、改修した場合と比較できるかということであり、今回は工事費の積算、平面図、断面図、立面図、構造計算書、電気機械等の設備計画書が含まれている。

問 琴丘地域拠点センターの建設について、山本・八竜地区の自治

会長会議などで協議されておらず、町全体の合意形成が図られていない。拠点センターの構想・計画を町民に示すべき。

答 建物は老朽化しており、今後震災等が仮にあった場合、代替え

施設もないことから、合築方式（支所・公民館）のものを提案した。地域住民にはこういう形の施設を整備したいということは、説明している。

議 会 選 任 等						選 任		任 命		平 成 2 4 年 度 予 算							
能代市山本郡養護老人ホーム組合協議会の議員の選挙	能代市山本広域市町村圏組合議会の議員の選挙	能代市山本郡養護老人ホーム組合協議会の議員の選挙	財団法人三神町山本開発公社役員の推薦	三神町農業委員会委員の選任につき議会が推薦する者について	三神町固定資産評価審査委員会の委員の選任	三神町固定資産評価審査委員会の委員の選任	三神町固定資産評価審査委員会の委員の選任	三神町教育委員会の委員の選任	三神町水道事業会計予算の補正	介護保険事業勘定特別会計予算の補正	農業集落排水事業特別会計予算の補正	公共下水道事業特別会計予算の補正	簡易水道事業特別会計予算の補正	18	18	18	18
18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	0	0	0	0
決定	決定	決定	決定	決定	決定	決定	決定	可決	可決	可決	可決	可決	可決	可決	可決	可決	可決

※6月8日の審議時は1人欠席のため、平成24年度温泉会計補正予算、教育委員会の委員の任命、固定資産評価審査委員会委員の選任、議会選任等議案についての採決数は18人となっている。

問 三種ミュージカルで演じられる川村養助さんはどのような人物なのか。

答 下岩川不動田に1864年に生まれ、村長や県議会議員として活躍した。村政のミスを告発され投獄されるが、この経験から更生事業に尽力した方で、その物語を上演する計画である。

問 JR地方文化事業支援事業の510万円の内容は。平成26年の国民文化祭に向けて、歌舞伎会館周辺の未舗装地帯を整備する考えはないか。

答 今回JRの補助金で、主に森岳歌舞伎会館の放送設備、舞台後ろの背景など、大道具を中心に整備する。国民文化祭に向け、周辺の環境整備についても当然考えていく必要がある。

問 来年度採用の正職員保育士を募集するということは、琴丘と山本地区の保育園について、今後とも町立公営で運営することで決定したということなのか。

答 来年度保育士を若干名採用する予定であることと、将来とも琴丘・山本地区の保育園が町営でいくことは、また別問題である。

国民健康保険事業勘定特別会計

問 一般会計からの繰入金約3千200万円を減額している。一般会計から繰り出したものを戻すより、国保税を引き下げるチャンスであったと思うが、引き下げない理由は何か。

答 戻すということではなく、法定ルールによる繰入見込額の減額である。

税率引き下げについては、今年度は農家の戸別所得補償制度の関係で農業所得が伸びた特殊事情のある年で、来年はその分所得が減少すると予想される中、医療の高度化等で一人当たり医療費は右肩上がりの状況である。

以上のことから、来年以降に急激な引上げとならないよう、将来を見据えて、今回は税率据え置きを決断した。

議案採決結果

○…賛成 ●…反対 欠…欠席 退…退席

議員名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	結果
鈴木 一幸																				
加藤彦次郎																				
清水 欣也																				
安藤 賢藏																				
工藤 秀明																				
堺谷 房子																				
平賀 真																				
伊藤 千作																				
近藤 一彦																				
金子 芳継																				
袴田 隆																				
三浦 敦																				
大澤 和雄																				
宮田 幹保																				
児玉 重吉																				
斎藤 清作																				
伊藤 広子																				
後藤栄美子																				
小澤 高道																				
議案名																				
平成24年度当初予算																				
一般会計予算の補正	○	●	●	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
国民健康保険事業勘定特別会計予算の補正	○	○	○	欠	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決

※採決の際に賛否が分かれた議案を掲載しています。

※議長は採決に加わりません。

請願 陳情 審査報告

陳情	件名	請願者氏名	審査委員会	結果
	基地対策関係予算の増額等を求める陳情	全国市議会議長会基地協議会 会長 神田 隆彦 (呉市議会議長)	総務常任委員会	採 択

三種川河川改修に伴う 農地農作物への救済処置を



堺谷 房子
議員

堺谷

河川改修促進協議会により毎年県へ上流部までの早期完成を請願しているが、県は山本中学校より上流部は、集落内をまずは急ぐことを考えており、他は霞堤となつとの説明をしている。そのなると流速の変化により霞堤周辺の農地は最悪の場合、これまで以上のスピードで犠牲になる。その場合、農地や農産物への救済処置を町単独でも考えられないか。また、集落内先行工事の内容も含め関係者全てに周知させるべきと考えるが。

町長

上流の集落からの改修計画について、県山本地域振興局では、3月に河川計画検討業務を発注したところであり、現段階では何とも言えないとのことだ。また河川氾濫による農作物被害は共済金で被害額を補填している。町単独の救済制度はない。

堺谷

共済金は相当の被害がないと出ない。水と同

時に田に大量のゴミが流れ込む。水の引き始めと同時に田主が危険を承知で、この水に乘せてビニール等いろいろなゴミを押し出さないと後の作業被害が大きいと水に入っていく。田の状況の変化が全く想像できない中での大変危険な行為だ。ゴミ拾い等に対して町単独の補助やボランティアを募る等、何かしらの救済措置を考えられないか。

建設課長

災害ということであれば建設課、町民生活課、農林課など関係課と協議する。

町長

上から流れて来たものを水のあるうちに川に戻してやるという話を大水の後で聞いたことがある。一歩間違うと人命が失われる大変な状況の中、後々のことを考えて皆がやっていると感じる。この場で即答できないが関係課と協議しながら、法令等にも照らし、地方局とも協議しながら進めたい。

※用語解説（広報委員会）

霞堤とは、堤防のある区間に開口部を設け、その下流側の堤防を堤内地側に延長させて、開口部の上流の堤防と二重になるようにした不連続な堤防です。

震災孤児等の招待について



斎藤 清作
議員

斎藤

昨年の3月11日に発生した東日本大震災から1年2カ月が過ぎた。避難生活者24万5千人中、父母のいづれかが死亡・行方不明者となつた18歳未満の震災遺児は3県（宮城県・岩手県・福島県）で1千295人。両親死亡行方不明者の18歳未満の震災孤児は3県で229人。親族里親に認定された方に19人が引き取られ、145人は知人に引き取られている。

そこで、釜谷浜で開催される真夏の最大イベント・サンドラフトに震災孤児等の方々を招き、心の傷を癒し涙を輝く笑顔に変えて、楽しく心に残る思い出を作るために招待できないか。

町長

現在計画している事業は、対象を震災孤児等という形に限定した事業はないが、秋田発子ども双方交流プロジェクト事業を利用して、岩手県大槌町の小学生

を招待する計画がある。三種町グリーンツーリズム推進協議会が受け皿となつて、サンドラフトの開催に合わせて2泊3日で昨年に引き続き大槌町の小学生30人を招待する計画である。

金仏梅公園について

斎藤

今年も1千533本もの多くの梅花を観に延べ160人の方が訪れている。訪れた方に快く楽しんでいただくために次の点について伺う。

- ①以前開催されていた梅まつりは再開できないか。
- ②梅の開花以外にも公園を訪れる方々の為にトイレや水道等水飲み場を設置する考えはないか。

町長

梅まつりは平成17年から3回実施した。農家の高齢化・後継者不足等から栽培管理されていない圃場が増加し、事業見直し等、検討したが中止に至つた。公園内のトイレ水飲場の設置は、公園内の起伏によるポンプ能力・管布設工事の費用等を考えた場合、困難と思われる。

「空き家条例」の早期制定を



小澤 高道
議員

小澤

老朽化が進んだ所有者不明の家屋が倒壊並びに屋根の落雪による近隣への迷惑が発生している中で今年4月の暴風による屋根のトタン、窓ガラスの飛散が近隣住民に多大な迷惑を及ぼしている現状である。町としても早期の「空き家条例」の制定を考えているのか。

町長

町内の空き家の件数は本年4月1日現在で457件と管理されていない空き家も増加していると推定される。早急に対策を講じる必要があると判断し、役場庁内の関係各課で構成する三種町空き家条例作業部会を4月25日に発足し、これまで2回の作業部会を開催し、条例の分析、実態調査を行い、当町が制定すべき条例の内容の検討に入っているところである。今後、作業部会では、所有者等への勧告、措置命令、そして最終的には行政代執行の条文まで盛込んだ条例を策定

し、9月定例議会へ上程する予定である。

地域雇用創出推進事業の利用状況

小澤

景気も幾分回復傾向に向っていると思われる。今年になって事業者の投資意欲も上向いている中、雇用の促進を図るためにも町内事業者への支援は重要と考えられる。今年度の利用状況は。

町長

町内の雇用と経済振興を図るためには、町内の企業支援は大変重要であると考えている。

今年度は、23年度と同じく5つのメニューで実施し、交付決定数が27件、新規雇用奨励事業が2件の6人の雇用、店舗等増改築事業が2件、機械設備投資事業が19件、営業車両更新事業が4件で補助金総額が2千998万円に達し、総事業費では1億7千480万円である。

この制度が事業者によく理解され、5月11日で申し込み受付を終了したところである。

今後の対応については意欲のある企業に対しては支援していきたいと考えているので検討したいと思っている。

道の駅、サンバリオ周辺の整備を



宮田 幹保
議員

宮田

道の駅や直売所の利用者が年々増加傾向にある。しかし、周辺にはまだ整備されないままの未利用地が2カ所あり、合わせると約4千500㎡の面積になる。貸し農園や観光用じゅんさい堤などの開発は考えられないか。三種町南の玄関と位置付けし、道の駅公園として整備すべきではないか。

町長

秋田市からも近く、休憩地点として利用されている。今後、公園として整備することにより更に多く利用される可能性はある。ふれあい農園とか、じゅんさいの体験学習ができる沼など良いアイデアである。その他も検討しながら賑わいの創出できるといえるものと考えていく。

琴丘公民館跡地一帯の利用

宮田

立地条件などすべてに利便性が一番良いことは誰もが認める所である。今現在も支所や公民館の建設場所は、この跡地が最適と思っている町民が非常に多い。今後どのように活用していくか町民が期待し注目している。「5年先、10年先は、こうなりますよ」と明確に指針を示し早急に進めるべきではないか。

町長

利用者の安全を最優先し、公民館は24年3月で利用を中止した。今後の整備や活用については琴丘地域のまちづくりという点で、重要な課題である。その検討に当たっては広い視野に立って関係団体や地域住民の意見を十分聞きながら慎重にその声を集約し活用の方角性を探っていくと考えている。

元気づくり支援事業を 地域活性化の起爆剤に



平賀 真
議員

平賀

三種町元気づくり支援事業は地域活性化の起爆剤と成りえる事業と認識している。今年度、申請された団体の事業内容、予算、補助決定額、自治会からの申請件数はどのようになっているのか。今後、全自治会から申請が出されるように情報提供に努めていくべきではないか。公開審査の前に申請内容の事前審査（アドバイス）を行ったのか。事業内容（実績報告）の確認はどのように行うのか。

町長

この事業は、町をより元気にするために積極的に独創的事業に取り組む団体に対し助成するものである。今年の4月から募集し、34件の申請があり、公開審査を実施。審査の結果、すべて選定基準をクリアした。事業内容はスポーツ7件、地域行事15件、福祉事業3件、環境整備4件、イベント

企画政策課長

申請書の内容に對し事前に審査し、備品のみの場合や食糧費が多い場合等はアドバイスをを行った。実績報告も公開審査会を行い、内容をチェックし、当初の申請から著しく逸脱した場合は返還もあり得る。この事業は3年間継続するものであるが、来年度も改めて公開審査会を実施する。

4件、農業体験1件。事業費871万円余、補助金583万6千円。自治会からは107の内20件18.7%であった。今後は各団体の活動状況を広報みたね等で情報提供していく。



元気づくり支援事業 公開審査会

「ゆめろん」の改修と 今後の経営方向は



清水 欣也
議員

清水

町は6億円をかけてゆめろんを改修することになっている。ゆめろんには、これまでに約35億円という膨大な金額が投入されている。しかし、その経営は4年連続の赤字に陥っている。ゆめろんができてから昨年までに約5千人の人口が減っていることを考えれば、赤字になるのは当然と言える。人口は、これからも確実に減っていく。そのような中で、今後さらに住民の負担が増えることになる改修計画は、費用対効果の上ではなはだ疑問である。地域の人口とバランスのとれた経営規模にすることを目標すべきではないか。

町長

雨もり等の漏水をはじめとする施設の老朽が進んでおり、そのための改修が必要な時期にきていると思っている。また、ゆめろんのイメージアップを狙った施設

清水

何が赤字の原因と考えているか。

改修を行うことによって、町内外からの利用者数が増加し、経営が改善されるのではないかと考えている。

町長

近隣温泉施設ができたこと、東日本大震災の影響、燃料費の高騰が主な要因と考えている。

清水

ゆめろんを公衆浴場や湯治場的な温泉場にしていった方が、これまでと違った素朴な賑わいが出てくるのではないかとと思うが、今後のゆめろんの運営形態をどう考えているか。

町長

将来、ゆめろんを湯治場風な温泉に変えて行つては、という考え方を今すぐにとるわけには行かないと考えている。人口減少など課題は多いが、経営懇談会等の議論を踏まえ抜本的な経営改革を行っていく。

清水

源泉の温度、湧出量は。

町長

平成17年の調査では、源泉の温度は32度、湧出量は毎分187ℓであった。今もこの数値に変化はない。

町長の政治姿勢と行財政の健全化について



工藤 秀明
議員

工藤 行財政改革の項目中、第3セクター等の民間委託の現況は。

町長 公益団体法人の山本開発公社と琴丘観光開発公社は株式会社としてスタートすることになっている。また、三種町農業公社は一般社団法人として24年度中に法人の解散、新組織に経営移行等を行う予定。なお、法人の統廃合は組織変更後改めて検討したい。

工藤 町から社会福祉協議会への補助金等は。

社会福祉協議会への補助金等

補助金	5,060万2千円
職員派遣費	1,024万6千円
業務委託料	3,353万3千円
管理運営費	1,666万5千円
合計	1億1,104万6千円

町長 補助金、業務委託料など合計で1億1千104万6千円である。

工藤 町税や地方交付税の下降が心配される中、補助金等の見直しが必要と考えるが。

町長 合併直後には厳しい査定をしたが、現在は査定をしっかりとしながら支出すべきものと考えている。今後必要以上に支出がないように査定を厳密にしていく。

町道の側溝改良

工藤 鹿渡一本木1号線の側溝、落蓋等の劣化が著しく、おうとも激しい。早急な交換が必要と考える。また、町民がそこでケガをしたとも聞いているが、町の対応は。

町長 劣化等の著しい落蓋は交換し、側溝の縁の部分の劣化についてはモルタル補修での対応をしたい。

建設課長 ケガをした方への対応は、本人と直接会って話を聞いてから対応したい。

高校生の通学費へ補助を



大澤 和雄
議員

大澤 県内、東成瀬村だけとなっていた高校生の通学費の補助を4月1日から北秋田市でも実施している。保護者の負担軽減と内陸線の利用促進を目的としたもので内陸線定期券の6割を補助するものである。本町には高等学校がないことから通学費が大きな負担となっている。本町でも保護者の負担軽減のため、高校生の通学費の補助を実施する考えはないか。

町長 当町としては、平成22年度から公立高校授業料無償制度や高等学校等就学支援金制度が開始され保護者負担軽減が図られていることや町内の通学形態の違いの大きいことから現状において困難であると考えている。

森岳温泉の活性化は

大澤 昨年は大震災の影響で森岳温泉に来る観光客が激減した。今年は若干客足が戻ってきたと聞いているが、かつての賑わいを取り戻せない状況である。森岳温泉は三種町唯一の温泉街である。森岳温泉を活性化させる具体策は。

町長 森岳温泉は町の大切な観光資源である。昨年度から三種町スポーツ文化合宿促進事業を実施、3千902人のほとんどが宿泊している。今年度は、ご当地グルメのじゅんさい井の販売開始や森岳じゅんさいサミットの開催、東北観光博・旅の駅へのホテル等の登録、JRのプレステイネーションキャンペーンでのPRなどで活性化を進める予定である。



観光PR風景

義務教育の無償化を



伊藤 千作
議員

伊藤 町民の意見を聞くと、福祉や医療の充実と伴に雇用や地域経済の問題、人口減少問題を懸念する声もある。

町の活力を維持していくためにも一定程度の人口規模は必要だ。そのためにも思い切った施策を行うべきだ。その大きな柱に給食費、教材費、修学旅行の義務教育の全額無償へ踏み出すなどの教育、子育て、少子化対策の取り組みが求められる。

当町はこれまでも、中学校卒業まで医療費の無料化など、さまざまな施策を実施してきたが、これを充実させて時代を先取りする画期的な施策の実施を。

町長

義務教育を全額無償化した場合、給食費を除いた額は、小学生で約2千200万円、中学生で約4千300万円。これに給食費約6千600万円を加えると総額1億3千100万円

と推定される。財政的に厳しい。今後、財政をしつかり立て直しながら考えていきたい。

奨学金制度、地元で働く人へ返済免除を

伊藤

不安定雇用と貧困化のもとで奨学金返済に苦しむたくさんの人々がいる。卒業後、当町で働く人の場合には、町として返済免除をするなど今後考えていったらどうか。

町長

奨学金は通常、学校卒業後6カ月を経過したのち10年以内の月賦、年賦等により償還することになっているが、現在の経済状況等から計画通り返済できない場合は、相談を受け、無理のない返済をお願いしている。確かに返済を免除する制度があれば、帰ってくる人も増えると思うが、働く場所が最終的に必要となってくると思われる。

秋田県町村議会議員

議会改革等に関する研修会

5月15日に秋田市のアキタパークホテルで県内12町村の議会議員約100人が参集し、秋田県町村議会議長会主催による「議会改革等に関する研修会」が開催された。

講師に全国町村議会議長会の三宅達也議事調査部長を迎え、演題を「地方自治法改正と地方議会の取り組み」と題し講演が行われた。研修会では、地方議会を取り巻く国の動向として、議員定数の法定上限の撤廃や議決事件の範囲の拡大、地方分権改革推進計画に基づく義務付けの廃止など、地方公共団体の自由度の拡大を図るための措置、地方行財政検討会議の経過等について説明があった。

また、地方議会の取り組みとして「議会基本条例」や「通年議会」等の取り組み事例の紹介があった。全国的に議会改革として広まっている「議会基本条例」については、平成18年5月に全国で最初に策定した北海道の栗山町議会が紹介され、現在、全国で1割を超える市町村議会で策定されるまでとなり、県内でも4町村議会が策定されている。三宅部長は「議会基本条例

の根幹は徹底した情報の公開と住民との情報の共有で、住民に議会の立ち位置や議会の運営を理解してもらい、住民からいろいろな意見が出るようになれば良い町づくりにつながるっていく」と述べていた。

通年議会については、メリットとして「議会に閉会中をなくす」「委員会の継続審査の申し出をしなくても委員会が開ける」等、デメリットとして「議会議員の緊張感がなくなる」等が挙げられ、条例制定の場合の課題もあり、今後十分な検討が必要と思われる。



新常任委員会等構成

●議会常任委員会

任期:平成24年7月6日～平成26年6月30日

	総務常任委員会	教育民生常任委員会	産業建設常任委員会
委員長	伊藤 千作	宮田 幹保	堺谷 房子
副委員長	三浦 敦	平賀 真	清水 欣也
委員	安藤 賢藏	鈴木 一幸	加藤 彦次郎
	工藤 秀明	大澤 和雄	近藤 一彦
	金子 芳継	斎藤 清作	後藤 栄美子
	児玉 重吉	伊藤 広子	小澤 高道
	児玉 信長		袴田 隆

●議会運営委員会

任期:平成24年7月6日～平成26年6月30日

委員長	副委員長	委員	
近藤 一彦	工藤 秀明	鈴木 一幸	加藤 彦次郎
		大澤 和雄	児玉 重吉

●議会広報編集特別委員会

任期:平成24年7月6日～平成26年6月30日

委員長	副委員長	委員	
平賀 真	小澤 高道	伊藤 千作	三浦 敦
		斎藤 清作	後藤 栄美子

●議会改革特別委員会

任期:平成24年6月8日～調査終了まで

委員長	副委員長	委員		
宮田 幹保	清水 欣也	堺谷 房子	平賀 真	伊藤 千作
		三浦 敦	袴田 隆	

●議会推薦農業委員

農業委員	小澤 高道
------	-------

任期:平成24年7月20日～平成26年6月30日

●能代市山本郡養護老人ホーム組合議会

議会議員	斎藤 清作
------	-------

任期:平成24年6月8日～平成26年6月30日

●能代山本広域市町村圏組合議会

議会議員			
児玉 信長	袴田 隆	伊藤 千作	堺谷 房子

任期:平成24年6月8日～平成26年6月30日

●財団法人三種町山本開発公社

公社理事			公社監事
安藤 賢藏	金子 芳継	斎藤 清作	加藤 彦次郎
伊藤 広子	小澤 高道		

任期:平成24年7月6日～平成26年6月30日

もっと
知りたい 三種町

文責：議会広報編集特別委員会

NO.13

あれ何となつてらつた

質問その後

過去の議会で、私たちの質問に対して「検討します」「考えます」などの答弁があったものについて、その後どうなっているのかを聞いてみました。

問

子宮頸ガン等ワクチン接種に関わる2010年度の国の補正予算が成立し、県でも市町村担当課長会議で内容が決定した。当町として、子宮頸ガン・肺炎球菌・ヒブの3ワクチンの接種補助制度について、いつから実施するのか。町として独自の制度として考えていくべきだ。

平成22年12月定例会 一般質問より

現況

子宮頸がん等ワクチン接種は、平成23年2月から国の緊急事業として実施している。子宮頸がんワクチンについては、公的補助として中学1年生から高校2年生まで全額補助しているが、平成24年度は高校3年生に対しても町単独で補助している。ヒブワクチン・小児用肺炎球菌ワクチンの対象者は、生後2か月から5歳未満となっており、全額公的補助を行っている。

問

北金岡駅にはトイレがない。過疎地域自立促進計画では平成23年度からの計画となっているが、衛生的にも良くないので、早急にやってもらいたい。

平成22年9月定例会 議案審議より

現況

平成22年度より地元自治会と協議を重ね、平成23年度にJRとの協議を経て、平成24年2月にバリアフリー化の水洗トイレとして供用を開始している。トイレの維持管理は、地元自治会が行っている。

問

薬剤散布の無人ヘリコプターについて、操縦士の育成が必要と思われる。しかし、この免許を取得するには約50万円という高額な費用がかかるため、町から補助して欲しいと若手農業者の声がある。「農業人材育成の補助金」など活用して補助できないか。

平成23年3月定例会 議案審議より

現況

平成23年度より、無人ヘリコプター免許取得希望者に対し、無人ヘリ防除免許取得費補助金として、免許取得費用（42万円）の1/2を補助している。平成23年度の免許取得者は3名であり、補助金額は63万円となっている。

問

この予算書には自治会振興費、自治会交付金、街灯の予算、分館運営費等が計上されている。さまざまな地区、自治会の補助金・電気料等が旧町のままであり、統一できないものか。

平成23年3月定例会 議案審議より

現況

合併以降、旧町の交付基準で交付している地域、また制度自体がない地域があったので、平成24年度からは新たに統一した基準を設け、自治会の運営等に係る経費について助成金を交付することになっている。新基準では「自治会運営」「集会所施設管理」「公園等維持管理」の3項目による算定基準により自治会運営助成金を交付し、各自治会で管理している街灯は全て町で維持管理している。

問

乳幼児医療費の拡充について、本町では未就学児の入院・通院とも所得制限、自己負担とも無料となっているが、小学6年生までの入院・通院に関する医療費を無料にするという拡充はできないか。

平成23年6月定例会 一般質問より

現況

秋田県では未就学児を対象にした医療費助成（福祉医療制度）を平成24年8月から、小学6年生まで拡充することになっている。本町では県の制度改正に併せて、県以上に制度を拡充し、所得制限や自己負担もなく、乳幼児から中学3年生まですべての子どもの医療費を助成し、無料化することになった。

問

「福祉教育町民バス等の管理、貸し出しについて一元化する」に関して、平成23年度に実施することになっているが見通しは。

平成22年12月定例会 議案審議より

現況

各バスの運行管理については、これまで受付窓口が旧町単位やバスの種類ごとにあり、バスの予約や配車に関しては利用者に不便がかかる状況となっていた。平成24年度からは研修・福祉・教育バスの予約受付、使用許可業務を一元化し、各バスの運行について利便性を向上させている。バス予約の窓口は総務課管財係、各総合支所地域生活係、教育委員会で受付している。

三種の星



森岳歌舞伎 代表

いし づか よし のぶ
石 塚 善 信

あつという間の20年。平成3年7月、伝統芸能である森岳歌舞伎の灯を消したくない一心で始めた保存会。例え6人でも8人でも集めて続けようとの思いで20年が過ぎました。設立当初はカツラや衣装・小道具等が不足で満足でない姿勢好で舞台に立たせました。それでも会員誰一人、不平不満を一言も言わず演技を行い奉納ができた喜びの笑顔でいっぱいでした。年々町外や県外にも知れ渡り、平成7年にはフランス国营TVチャンネル3の取材が5日間入り大変なプレッシャーで、今でも思ひ出されます。一地方の農村歌舞伎(村芝居)が、こんなにも注目されるとは夢にも思わないことでした。

これまでに県の宝くじ市町村交付金、安田生命文化財団助成

金、個人様等からの寄附金により少しずつカツラ・衣装等が準備でき各演目に見合う姿勢好で演技ができるようになり、演目も増やすことができました。平成23年度は県の予算が付き、私の長年の念願であります「青砥稿花紅彩画(白波五人男) 稲瀬川勢揃い」の場を演目に加えることができました。有難いことに一昨年、歌舞伎後援会が設立され保存会をサポートしてくれることになり感謝でいっぱいです。

なお、今年度はJR東日本文化財団様からの助成金が贈呈され、それに合わせて振興協議会が設立され、町の予算も加わり2年後に行われます国民文化祭に向けての大きな準備が開始されます。未だ「歌舞伎」には至っておらず「歌舞」のままでですが会員一同伝統芸能の農村歌舞伎を後世に残すべく努力してまいりますので、今後とも御指導の程宜しく御願ひ申し上げます。

いちのたにふたばぐんき
一ノ谷嫩軍記
すまのうらのだん
須磨浦の段

写真提供：森岳歌舞伎保存会

お知らせ

平成24年度
奉納公演
9月16日(日)

編集後記

4年間の議会活動も折り返しを迎え、委員会構成が新しくなりました。全員が、議会活動に邁進すべく、心新たにスタートしたところです。

議員定数をはじめ議会活動内容を検討していく議会改革特別委員会が新たに設けられました。今後の活動を注視していただければと思います。

議会だよりも今号で26回を数えました。毎号表紙の写真を提供してくださる吉田博光様はじめ歴代の編集委員の方々のご努力に敬意と感謝を申し上げます。次号から新委員による編集となります。議場の臨場感をお伝えできるよう努力してまいります。

平賀 真

